

おおさき 議会だより



住民の声を行政へ(住民と議会と語る会)
(関連記事14~15ページ)

3月定例会

こんなこと決めました

- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| ● 令和8年度当初予算…………… 2 | ● 住民と議会と語る会 …………… 14 |
| ● 令和7年度補正予算…………… 4 | ● インタビュー(ピックアップおおさき) …………… 19 |
| ● 町政を問う(一般質問) …… 5 | ● 町民の広場・編集後記…………… 20 |

るまちづくりのために 133億6,807万3千円 に実施されるおもな事業

大崎町居住住宅等 リフォーム補助金(新規) 予算額 2,500万円

築20年以上経過した自己所有の居住住宅に対してリフォームにかかる費用を補助
概要：改修の範囲は、基本的に空き家等
リフォーム補助事業に準じる。
上限：対象経費の1/2
擁壁敷地内の植物の撤去のみを行う場合は
上限20万円
擁壁等家屋の改修を行う場合
上限30万円

自治公民館備品購入補助金(新規) 予算額 800万円

公民館建物の老朽化対策など、引き続き建物修繕に対する支援を行うとともに、新たに活動に要する備品購入への補助を行う。

サテライト診療所設置運営等 支援事業補助金(新規) 予算額 2億円

令和6年度より「医療確保プロジェクト」推進で、「サテライト診療所設置運営等支援事業」の実施主体として「医療法人玲心会」を採択。
令和8年度において、診療所開設に必要な土地・建物、医療機器の取得費用や、開設前後の運営経費の一部を助成する。

小・中学校屋内運動場 設備改修工事(新規) 予算額 2億9,600万円

学校環境の改善をはかるため、学校施設整備に取り組む。各小中学校屋内運動場への空調設備の設置や照明設備の改修、児童生徒が安全・安心に学校生活を過ごすことができる環境づくりに努める。

令和8年度大崎町一般会計予算

安心して暮らしていけ

補助制度の拡充と新た

小・中学校電子黒板導入 (新規) 予算額 7,376万6千円

令和2年度国のGIGAスクール構想第1期において本町で整備した各学校の電子黒板において、第2期対応の電子黒板購入にかかる経費であり、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの更なる充実をはかる。

- 大型電子黒板一式(小学校) 5,709万円
- 大型電子黒板一式(中学校) 1,667万6千円

空き家等リフォーム促進補助金 予算額 4,250万円

2か月以上空き家状態の住宅についてリフォームにかかる費用を補助する。

自治公民館運営補助金 予算額 1,390万8千円

自治公民館運営の健全育成強化並びに行政連絡の円滑化の促進に寄与するため運営補助金を増額する。

おでかけタクシー 利用助成事業補助金 予算額 1,766万4千円

自動車等運転免許証を持っていない高齢者等に町独自のタクシー利用券を発行する。

環境美化推進交付金 (新規) 予算額 484万5千円

自治公民館による自発的な清掃作業を支援する。

有害鳥獣電気柵等 設置事業補助金 予算額 875万円

農作物への鳥獣被害を未然に防止するための電気柵等への経費を補助する。個人農家と法人向けに補助制度を拡充。

地域応援ポイント事業 予算額 2億1,240万円

全町民に対して、オオサキポイント2万円分を付与し、住民と町内事業者を支援する。

総務厚生常任委員会

令和7年度一般会計補正予算審議

菱田中学校跡地残置物撤去等工事

120万円減額

(補正前1億2000万円)

質問 工事による騒音・振動など地域住民に与える影響など現状は。

答弁 現場に騒音と振動を測定できる機械を設置しているが、影響と地域住民からの苦情等受けていない。



騒音測定器の設置

ふるさと応援基金積立金

1億8363万6千円増額

(補正前16億5517万円)

本年度当初で35億円のふるさと納税寄附金を計上していたが、最終的に55億円が見込まれることから関連経費を補正。

積立金

1億8363万6千円の増

ふるさと納税寄附金から関連経費を差し引いたふるさと応援基金への積立金。

その他、関連経費の主なものとして、

・報奨費

1億5000万円の増

(返礼品の経費)

・役務費

6620万円の増(ふる

さと納税ポータルサイト

手数料及び決済手数料)
・委託料

1億120万円の増(ふるさと納税中間業務等に
係る経費)

令和7年ふるさと応援基金充当事業(抜粋)

(単位:千円)

名称	充当額(※)
おでかけタクシー利用助成事業補助金	12,200
定住住宅取得補助金	98,000
生ごみリサイクル(堆肥化)委託料	42,700
オオサキポイント事業事業費繰出金	54,700
ふれあいフェスタ in おおさき補助金	7,000
大崎町立小中学校 GIGA スクール構想第2期対応端末	60,800
スクールバス運行業務委託料	33,800

※令和7年度大崎町一般会計補正予算(第8号)時点の金額です。

有害鳥獣捕獲事業補助金

142万4千円増額

(補正前390万8千円)

有害鳥獣の捕獲実績が増加していることによる増額。

質問 被害鳥獣捕獲補助金について、今年度の捕獲実績は。

答弁 イノシシベースでいくと、昨年度が184頭、今年度は1月末時点で302頭捕獲しており、対前年比164%の実績となっている。

定住住宅取得補助金

2700万円減額

(補正前1億2500万円)

7年度の実績に伴う補正減。
質問 定住住宅取得補助金は何件見込んでおり何件の実績があったのか。

答弁 当初、最大の補助金額500万円を25件分見込んでいた。実績として、今年度は26件の申請があり、そのうち転入の件数が9件であった。この制度による実際の人口増加数は27名となっている。

町政を問う

一般質問

鷺 東 慎 一 議員

・町長の公約及び施政方針



P 6

中 山 美 幸 議員

・大崎町の将来像を聞く



P 7

藤 田 香 澄 議員

・オオサキポイント活用促進
・プロスポーツ事業における地域おこし協力隊制度活用状況
・本町の空き家対策



P 8

富 重 幸 博 議員

・我が町のおかれている現状と課題
・地域の力を生かすまちづくり



P 9

稲 留 光 晴 議員

・町長の施政方針
・スクールバス発着所への自転車通学



P 10

児 玉 孝 徳 議員

・町長の施政方針



P 11

中 倉 広 文 議員

・公約実現への具体策は



P 12

岡 元 修 一 議員

・地域作業班の可能性と取り組みへの評価
・竹林整備・放棄地対策に向けた体制強化と機械導入



P 13

一般質問とは

町長などの執行機関に対し、業務の執行状況や将来の方針などについて議員個人として政策論争を行うものです。

二次元コードをスマホ等で読み込むと各議員の一般質問を視聴できます。

問い合わせ先：大崎町議会事務局 TEL 099-476-1111 (内線 310・311)

「世界一幸せなまち」とは

幸せの定義は 経済・健康・人権・心理的安全



あしとう 議員
しんいち 慎一

策として、医療確保プロジェクト、子育て支援、リサイクルの推進を実施する。

問 対話によるまちづくりと新しい町政を掲げ、目指す町のビジョンとして「世界一幸せな町」を提案されているが、具体的な施策やビジョンは。

世界に誇れる町

答 町長 本町は、リサイクル率日本一であり、環境保全だけでなく町民の生活全体を幸福にすることを目指している。

幸せの定義として、経済的安定、健康、人権の尊重を挙げ、具体的な施策



学びの多様化学校
悠志学園(志布志市)



プレイルーム兼リビングルーム

子育てしやすい町とは

問 子育てしやすい町を目指す具体策で、教育環境や経済的負担の軽減についての施策は。

妊娠から子育てまで支援体制を強化

答 町長 妊娠期から子育て期までの支援を充実させるため「子ども・家庭センター」を設置し、経済的負担を軽減する施策として出産時の給付金、学校給食の無償化、中学校制服の無償化などを実施する。

教育環境の整備は

問 教育環境の充実についての具体策及び児童発達支援・通級教室の支援や送迎サービスの導入は。

学力・英語力向上を目指す

答 町長 学力向上や英語力向上を目指し、教育



リサイクルゴミステーション大崎地区

内容の充実に取り組み。また、地域活動の支援や子育て支援の充実をはかることで、子育て世代にとって魅力ある環境を整備する。

保健福祉課長 児童発達支援を行う施設が一箇所のみで、登録者数が多くなり、新たな施設の設立を希望しているが、場所の確保が難しい状況である。

教育長 現在、通級指導教室は大崎小学校に設置されているが、他校通級のための送迎は原則保護者が行う必要がある。今後、送迎サービスの導入について検討していく。

農林水産業の振興策は

問 農林水産業振興についての現況、農業の担い手不足や後継者問題についての認識は。

地域創出モデル支援事業を進めている

答 町長 農業の持続可能な発展に向け、地域創出モデル支援事業を進める。

リサイクルシステムの取り組みは

問 リサイクルに関する町民負担軽減策の改善策や町民の意見を反映させる重要性の考えは。

負担軽減対策をはかる

答 町長 常設ゴミステーションの設置や個別回収の実証実験を行う計画がある。資源循環の取組を進める中で、町民の意見を大切にし、負担軽減をはかる施策を進める。

※その他の質問
地域コミュニティ、高齢者支援

将来を見据えた政策・財政は

情報収集に努め改善策を練る



なかがやま みゆき 議員
中山 美幸 議員

問 町政のこれまでの課題認識と、その改善に向けた令和8年度の具体的な取り組み及び、人口減少が進む中で、本町の将来を見据えた持続可能な行政運営の方向性について、町長の考えは。

持続化重点の政策に取り組む

答 町長 人口減少と少子高齢化を最大の課題と捉え、担い手不足や地域医療、生活基盤の維持に対応する。令和8年度は医療体制の確保、子育て

支援、農畜産業の持続化を重点に取り組み、あわせて地域資源を生かした産業振興をはかり、対話を重ねながら持続可能なまちづくりを推進する。

現実的政策・行政運営は

問 本町の総合計画と国の予測とは大きな差異がある。今後急速に進む人口減少と高齢化のなか、町長は現実的な行政運営や政策をどのように考え、今後4年間にどう反映させるか。

将来に向けた課題と捉える

答 町長 差異があることや人口減少も認識しており、住宅補助や移住支援など現行施策を行いながら、教育や資源循環も

含め、将来に向けた課題として検討・改善していく。

新たな財源確保が必要

問 8年度予算ではふるさと応援基金と財政調整基金からの繰り入れが22億6千万円で総予算の16%をしめている。基金に対する依存度が高いと収入の変動や基金の減少リスクがある。長期的な財政健全化に向けて、税収増や新たな収入源の開拓が必要ではないか。

恒久的財源を求めていく

答 町長 ふるさと納税依存から脱却するため、固定資産税や地域資源を活用した安定的な収入源を確保する必要がある。加えて、災害時の予算リスク管理も必要である。

8年度歳入予算 (単位:千円)

8年度一般会計予算書から(本人作成)

町税	1,367,379	町が住民や企業から集める税金
地方譲与税	85,595	国が集めた税金の一部を後から町や市などに分けて渡すお金
利子割交付金	600	預金の利子にかかる税金の一部を県が市町村に配るお金
配当割交付金	2,100	株の配当金にかかる税金の一部を県が市町村に配るお金
株式等譲渡所得割交付金	3,500	株などを売って得た利益にかかる税金の一部を県が市町村に配るお金
法人事業税交付金	14,000	県が集めた法人事業税の一部を市町村に配るお金
地方消費税交付金	228,000	地方消費税として集めたお金を、県から市町村に分けて配るお金
ゴルフ場利用税交付金	3,800	ゴルフ場を利用するときの税金の一部を県から市町村に配るお金
環境性能割交付金	1,610	車の環境性能に応じて課税された税金の一部が町に配分されるお金
地方特例交付金	7,400	国の政策によって町の税収が減ったとき、その穴埋めとして国が渡すお金
地方交付税	2,770,000	国が地方自治体の財政力の差を調整するために交付するお金
交通安全対策特別交付金	1,260	交通安全に関する施策を行うために、国が町に交付する特別なお金
分担金及び負担金	17,791	ある事業の費用を、複数の主体で割り勘するためのお金
使用料及び手数料	61,840	町の施設や設備を使ったときに支払ったお金
国庫支出金	1,350,075	特定の政策や事業を実施するために国が町に支払う補助金
県支出金	906,137	県が行う事業の一部を、市町村などに負担させるための補助金
財産収入	50,647	町が所有する財産から得られる収入
寄附金	3,580,005	町が個人や企業、団体などから任意で受け取るお金
繰入金	2,290,391	基金に蓄えてあるお金を、別の目的の支出に回すために移すお金
繰越金	30,000	前年度や以前の会計で使わなかったお金を、翌年度に持ち越されたお金
諸収入	58,243	税金以外の細かい収入
町債	537,700	町が公共事業や施設整備のために資金を外部から借り入れる借金
歳入合計	13,368,073	

オオサキポイント 今後の活用拡大の考えは

利用率は高く 活用拡大を検討



ふじた かすみ 議員
藤田 香澄

問 地域内経済循環を目的として導入されたオオサキポイントの利用状況をどう捉えているか。

答 町長 当初は困惑されていた方もいると思うが、利用率で見ると浸透してきていると感じる。デジタル情報格差対策として引き続き相談窓口は続けていきたい。

全町民ポイント利用率	約 74%
65歳以上の高齢者利用率	約 89%
登録事業所数	184 店舗
地域内消費額	約 1 億 2,500 万円 (チャージ分含む)
本事業の費用 (初年度導入費含む)	1,862 万円

(2026年2月末時点の利用状況)

今後の活用方針は

問 本町の環境整備活動や商工分野、地域事業者による回遊性イベントに加え、観光客や関係人口、ふるさと納税返礼品としてのポイント発行など、さらなる活用拡大はどうか。

事業者と連携をはかり活用促進に取り組みたい

答 町長 町の各種イベントでは引き続き参加ポイントを発行したい。また事業者とは、キャンペーンなどに対応できるような商工会と連携したい。さらに観光客や関係人口に対してはポイントをきっかけに町内での消費・滞在を促す仕組みを検討したい。

ビーチスポーツ関連の協力隊等の採用状況は

問 ビーチスポーツ振興を目的として採用した地域おこし協力隊や地域活性化企業人の募集内容と、それぞれが求める大崎町での環境についてミスマッチが生じ、早期離職が起こっているのでは。

ミスマッチが発生しているのであれば正したい

答 町長 現在、本件における地域おこし協力隊は8名、地域活性化企業人は2名を採用している。本町のスポーツによる地域振興は非常に大事なことであるため、人材の募集内容と業務内容のミスマッチが発生しているのであれば、修正をしていきたい。

空き家等バンクのサイト改善や活性化の考えは

問 空き家等バンクの利用登録者の中には移住目的の方が一定数いる。空き家の流動性を高めるため、移住環境情報や売買価格を掲載するなど、民間への運用委託等も含めて運用の活性化を検討できないか。

改善の余地がある

答 町長 移住環境情報の掲載、物件の探しやすいなど改善の余地はある。また移住窓口等も必要だと考える。かかる費用や運営体制など十分に整理した上で判断したい。



(志布志市が民間委託を行っている空き家バンクサイト)

町長の政治姿勢を問う

誇りと希望を持てる持続可能な町づくりを進める



議員 幸博 幸博 富重

問 町長は、どのような政治姿勢、信条のもとに対話でつくるみんなの未来「いくつになっても安心して暮らせるまち」をはじめ、5つの公約を掲げられたか。

持続可能な未来を築く

答 町長 持続可能な大崎町の未来を築いていくために町民の皆様の力を結集し、町民一人ひとりが誇りと希望を持てる町づくりを進めていくことが私の政治姿勢である。

「地域の力を生かす町づくり」の基本認識は

問 「町民が主役！地域の力を生かす町づくり」の基本認識はどんなものか。

町民や地域の知恵をもとに町づくりを進める

答 町長 これまでの共助の仕組みが厳しい状況におかれている。町民の皆様や地域の知恵を出しながら、行政がそれを支えて共に町づくりを進めていく。

どのような活動支援か

問 自治会などの活動支援の中身はどうか。

運営補助金を引き上げ

答 町長 年間基本額を1万9千円から2万4千円に、一世帯あたりを2千円から3千円に引き上げた。

これにより一自治公民館あたり補助金の額は、おおむね1.4倍になる。

自治公民館加入状況は

問 自治公民館の加入率、未加入者の状況、全体の戸数はどのようになっているか。

加入率は、約61%

答 町長 昨年5月1日現在で、約61%、全体の6538世帯に対し加入世帯が3961、未加入世帯が2577である。

対話の仕組み活用策は

問 多様な声を反映し町政に生かす対話の方法をどのように考えているか。

テーマや対象を工夫しながら機会を設ける

答 町長 ファシリテーター（進行役）を取り入れながら多様な立場の方々の声を反映していくため、テーマや対象を工夫しながら対話の機会を設けていく。

早急な対話の実施は

問 対話の機会づくりを急ぐ考えはないか。

順次機会を設けたい

答 町長 一定の準備も必要と考えており準備が整い次第、順次対話の機会を設けたい。

草刈りなどの作業支援をどのように考えているか

問 道路や水路などの作業について自治公民館における労働力の弱体化、動員力の脆弱化が進んでいるがどのように考えるか。

予算増額で対応

答 町長 関係課の予算やメンテナンスフリーなど防草対策予算も増額しており、農道を含め維持管理に努める。



メンテナンスフリー工事 町道（飯隈一在郷線）

機械借上料の充実を

問 予算の充実は、どう考えるか。

支障のないよう努める

答 町長 今後とも一般の通行等に支障のないよう努める。

子育てしやすい住みよい町づくり への子育て支援策は

中学校援助金の支給額を 総額10万円に増額



稲留 光晴 議員

問 町長の施政方針で中学生の制服無償化など子育て支援策は。

答 援助金総額を10万円に増額する。

答 教育長 入学準備に要する経費は増加傾向にあることから、保護者への支援の充実は重要な課題である。負担軽減をはかるとともに令和8年度について中学校援助金の総支給額を10万円に増額する。

保護者への援助金支払いはいつになる

問 新1年生は制服などの寸法どりが終わって3月中旬の受け取り時に制服代金を支払うことと聞くと、保護者への援助金の支払いはいつか。

5月中には振り込み形で準備をすすめる

答 管理課長補佐 支払時期については、4月に入り早急に保護者などの確認をして5月中には振り込み形で準備をすすめる。

畜産関係者・生産者への補助金の拡充は

問 町長の施政方針で、畜産部会の関係機関と連携をはかり、対策を講じていくとあるが拡充の具体策は。

町単独事業を創設し導入自家保留牛への補助実施

答 町長 令和7年度、8年度より単独事業として酪肉生産基盤維持対策事業を創設し、導入牛・自家保留牛に対して、1頭当たり上限3万円の補助をしている。

居住住宅へのリフォーム助成事業の概要は

問 令和8年度より予算化された居住住宅のリフォーム助成事業は念願の事業である。事業概要は。

**補助率は経費の50%以内
で限度額50万円**

答 町長 要件として、築20年以上で自己所有、現在居住している住宅であり、工事の施工者は町内業者であることとしている。

補助率は対象経費の50%以内、家屋は、限度額30万円で、敷地内の擁壁や植物の撤去、除去も対象で補助率50%以内で限度額20万円としている。予算として2500万円計上している。

スクールバス発着所が臨時に菱田改善センターか

問 発着所が正式に決まるまで臨時的に菱田改善センターを利用していいのか。

校区内の停留所として対応可能な公共用地を選定

答 教育長 菱田校区内の停留所として対応可能な土地で、公共の用地として管理されている場所であることから菱田線のバス停として選定している。



菱田改善センター駐輪場

盗難防止策が必要では

問 自転車の盗難防止策など必要ではないか。

自転車の鍵の施錠や盗難防止の周知防犯意識徹底

答 教育長 自転車の鍵の施錠、二重ロックの励行や、盗難防止の周知をはかり、防犯意識の徹底、盗難保険の加入など学校と引き続き連携して指導していく。

施政方針を問う

対話で今後の時代をつくる



こ だ ま た か の り 議員
児 玉 孝 徳

問 課題を本質的に捉え、対話でつくるみんなの未来とはどのような内容か。

答 町長 多様な人たちの未来志向の対話が、今後の時代をつくると思

っている。課題の本質を共有し挑戦を重ねながら、町民と共に大崎町の未来をつくる町政運営を進める。

地域の力を活かす町とは

問 町民が主役、地域の力を活かすまちについて、自主的な活動の応援の内容と、平時から災害に備えた安心できる地域の見守り体制の充実とは何か。

答 町長 人口減少や高齢化により地域活動の維持が難しいため、課題の解決や地域づくりに取り組むコミュニティ協議会の設立を進めていく。また地域の見守り体制を支援していくことや消防団の支援充実が大事だと考える。

将来への投資とは

問 地域と将来へ投資するまちについての内容は、事業者と協力して魅力アップしていく

答 町長 環境や、和牛・鰻など、全国でも有数の特産品がある大崎町の知名度向上のため、事業者と協力して情報発信し魅力度アップしていく。

ジェンダーレス制服の導入を

問 多様性を重んじる時代でズボンかスカートを選べるジェンダーレス制服の導入の考えはないか。

必要と考える

答 町長 人権尊重という観点から必要と考える。

雨の日でも遊べる施設を

問 児童館や子ども館、また屋根付きのドームの整備も進めれば雨の日で

もグラウンドゴルフとかできると思うがどうか。

エア遊具の室内型の遊び場を考えている

答 町長 エア遊具を活用した屋内型の遊び場や公園施設に屋根を設けるなど検討している。大規模なドームは財源とのバランスを考え検討する。



東串良町設置のエア遊具(MARUMARINE)

農畜産業への取り組みは

問 農畜産業と環境を守るまちについての考えは、

新規就農者の育成や担い手の確保に取り組む

答 町長 新規就農者の

育成や農業公社による研修事業など担い手の確保に努め、農地整備や農地集積を進め、荒廃農地の発生抑制と農作物被害の防止、持続可能な農業経営の基盤づくりに取り組む。

交流と観光への取り組みは

問 本町の特長を生かした交流と観光につながる取組とは何か。

答 町長 スポーツ観光まちづくり、アスリートトレーニングセンターの地域イベント、また農業後継者の担い手確保の対策事業や、リサイクルを基軸とした交流人口の増加につなげていく。

答 町長 スポーツ観光まちづくり、アスリートトレーニングセンターの地域イベント、また農業後継者の担い手確保の対策事業や、リサイクルを基軸とした交流人口の増加につなげていく。

※1 性別の境界や区別をなくす・意識しない状態

※2 子どもを対象とした、空気で膨らませた大型遊具の総称

住民の安心感を

どのように確保するのか

生活に寄り添った 施策を着実に進めていく



なかくら ひろふみ 議員
中倉 広文

問 いくつになっても安心してくらせるまちへの所信表明があったが、住民の安心感をどのように確保するのか。

生活に寄り添った施策を進める

答 町長 まずは、地域医療の確保に取り組む。また、タクシージェット制度の拡充などを通じて、住み慣れた地域で安心して生活を続けられる環境

事業名	大崎町おでかけタクシー利用助成事業
補助対象要件	自動車等運転免許証がなく、下記のいずれかに該当する町民 ① 65歳以上の方 ② 介護保険の要介護度が1以上の方 ③ 下記の手帳をお持ちの方 ・ 身体障がい者手帳（軽自動車税の減免資格を有する方） ・ 療育（A1またはA2）手帳 ・ 精神障がい者保健福祉（1級）手帳
助成内容	対象者1人当たり利用券96枚（1枚500円、48,000円分）を交付します。 ※年度途中で対象要件を満たすこととなった場合は月割りで交付します。

づくりを進めていく。さらに、行政体制の充実に努め、生活に寄り添った施策を着実に進めていく。

小規模の圃場整備はできないか

問 水田の畦畔除去など小規模の圃場整備について、国県事業の活用や町独自でも補助事業の実施は検討できないか。

早く実現できるよう検討していく

答 町長 畦畔の撤去は、農地の集約化や作業効率の向上に資する取組であると認識している。現在、町単独の制度創設についても検討しており、他の自治体の事例や国の制度なども参考にしながら、本町の実情に即した支援策をなるだけ早く実現できるように検討していく。

ポイント事業をさらに活用できないか

問 高齢者元気度アップポイント事業の取得ポイントの商品券に交換するために、役場本庁舎や野方支所に向かないといけな。ポイント事業を活用し、さらに利便性を向上できないか。



音楽に合わせて発声や体を動かす音楽体操

さらに活用を進める

答 保健福祉課長 介護予防などでポイントをうまく活用しながら、健康のまちづくりができればと考えている。今後も検討を重ねながらポイント事業を活用した施策を進めていきたい。

上下水道施設更新のスピードをはかれば

問 上下水道施設の老朽化によって全国で災害級の事故が発生している。布設替えなど施設更新等のスピード化についてどのように考えるか。

注視して予算配分する

答 町長 本町住民の生命・財産に関わることであり、老朽化した施設については更新していかなければならないと考えている。今後、注視しながら予算配分を行っていく。

地域の環境を守る 新たな共助の必要性は

活動が今後の活性化につながる

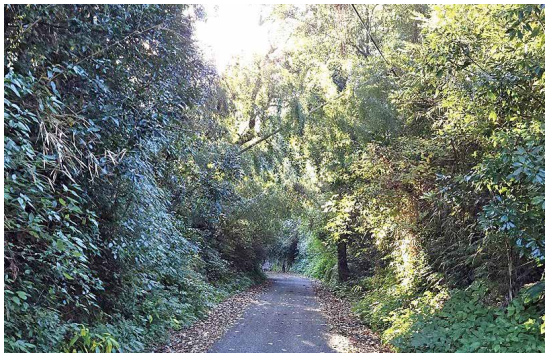


おかもと しゅういち 議員
岡元 修一

問 地域の力で続けてきた草刈りや側溝清掃が難しくなり、負担の偏りや竹林の荒廃が進んでいる現状を踏まえると、住民と行政が協力して暮らしを守る新しい維持管理の仕組みを考える時期に来ていると感じる。現状をどう見るか。

集落機能の低下を感じる

答 町長 各集落で話を聞く中で、高齢化や担い手不足から作業が困難な現状が浮かび上がってくる。



整備が遅れている町道

提案した地域作業班(仮称)活動をどう評価するか

問 校区ごとに、除草などの軽作業に参加できる住民で構成する団体を立ち上げ、地域からの道路整備等の要望に応じて活動する。行政は、その取り組みを補助し、地域の維持管理を支える仕組みとするが。

まだ実働がなく評価はできかねる

答 町長 団体は活性化に繋がると思うが、従来の奉仕作業との住み分けなど詰めていく課題がある。

仮の制度下でも伐採くずは回収対象になれるか

問 地域で処分が難しくかった伐採くずは、集めておけば行政が回収すると聞いている。提案の地域作業班では。

組織形態で対応は異なる

答 町長 ボランティア団体であれば同様の対応は可能だが、請負業務として実施する場合は「事業系一般廃棄物」として扱われるため、行政として対応することはできない。

竹粉碎装置の導入は検討できないか

問 荒廃竹林の拡大が進み、地域だけでは守りきれない現実がある。町が国の補助金と森林環境譲与税を活用し、竹粉碎アタッチメントを導入して地域作業班の活動を支え、持続的な整備体制を築く必要があると考えるが。

補助金の目的が「人工林の整備等」と指定されている

答 町長 提案された補助金の事業概要が森林整備の円滑な実施、林業の担い手育成などとされており補助金活用での導入

は困難である。



竹粉碎アタッチメント装着車両

地域作業班の支援体制の仕組み作りはできないか

問 このような仕組みが、これからの地域づくりにおいて必要性和可能性を持つ取り組みであるが。

関係機関と緊密に協議

答 町長 今後地域において自発的に地域作業班のような団体が立ち上がった際には、行政側で深く話し合っていきたいと考えている。

策提言書を提出

問 水田維持管理困難の現実、対策は。

答 交付金の活用で、地域全体での維持管理の仕組みがある。

問 先進地視察研修や視察受け入れなどが議会だよりに掲載がないが。

答 親しまれる広報紙の務めとして今後掲載をしていく。

問 志布志まで通う通級指導教室の負担軽減できないか。

答 巡回指導や送迎などの検討を提言していく。

問 環境学習拠点施設（旧そうしん社屋跡）解体費 165 万円支出の判断者は。

答 前町長と衛生自治会会長との協議で、衛生自治会からの支出であるとの報告を受けている。

問 地域通貨（オオサキポイント）利便性を高められないか。

答 健康ポイントやキャンペーンと連携、地域経済循環に繋げる提言を行う。

問 高齢者対象の温泉利用券、町外でも使えるようにできないか。

答 近隣自治体を参考にしながら制度改善を提言していく。

問 ふるさと納税・企業版で得た基金活用の効果検証は機能しているか。

答 必要に応じて検査、検証を行っている。

問 少子高齢化が進む今、大崎町の将来をどう描くか。

答 総合計画に基づき、人口減少を踏まえた持続可能なまちづくりを行政が進める中、議会は施策を審議し、必要な提言を行っていく。

問 キャンプ場指定管理否決後の運営は。

答 3月議会で町が説明を行う。
令和8年度は町の直轄で行うと発表

問 中央分団詰所移転は、周辺住民への説明不足ではなかったか。

答 一部の利用者には説明を行っていたものの、今後は住民への説明をより丁寧に進めていく必要があると認識している。

問 空き家解体、浄化槽設置への補助金はあるか。

答 各補助制度をすでに設けている。

問 議会の採決は多くが賛成だが、十分な議論が行われているのか。

答 議案は委員会や特別委員会で詳細な審議を行ったうえで判断している。

問 議員の定数削減をどう考えるか。

答 「議員改革に向けた実行委員会」で議論していく。

（文責：岡元修一）

住民の声を基に政

問 小学校入学前の教育相談の充実はできないか。

答 あり方についての状況把握しながら制度改善を提言していく。

問 キャンプ場指定管理否決の理由は。

答 以前から改善指摘事項に対する事柄への対応を踏まえ議会で議論の結果、今回否決となった。

問 人口減少が進む今、自治公民館の今後は。

答 行政指示待ちからの脱却、地域主体の活動へのかじ切りへ。

問 トライアル誘致への土地は貸与でなくなぜ売却だったのか。

答 企業側が、売却を希望。議会でも地域活性化など総合的判断、審議した。

問 外国人増加に伴う諸問題（宗教・埋葬）等の対応は。

答 具体的な報告は聞いていない。行政と共に対応を検討する。

問 子どもたちが利用できる放課後等デイサービスの施設が不足しているがその対策は。

答 補助金制度はあるが、施設開所のための物件不足が課題であり、課題解決のため提言を行っていく。

問 衛生自治会会費を任意と知らずに支払った住民への対応について。

答 任意団体の事柄であり議会として対応できる事案ではない。

問 医療確保プロジェクト手順への疑問。

答 医療確保は重要課題と捉え今後、慎重審議を行う。



住民と語る会



政策提言書

議員研修

議会活動の活性化と住民福祉の向上

町村議会議員研修会 1月20日

新しい知見で自然災害から地域を守る 講師 国崎信江氏

規模災害への備えは、多くの自治体で十分とは言えず、少子化により行政・警察・消防・自衛隊も人員確保が難しくなっています。こうした中、地域を守るためには、住民の自助力と共助の仕組みが欠かせません。初動対応を支える「ファーストミッションボックス」の活用は、その一つとして重要です。

講演を通して、地域で進める避難所運営づくりや防災の取り組みを、これからも一歩ずつ強めていく大切さを改めて感じました。誰も取り残さない防災をめざし、現場で見えてきた課題を議会でも共有しながら、必要な支援や制度づくりにつなげてまいります。

※大規模災害が発生した直後、避難所に最初に集まった住民が、迷わず避難所開設の初動を行えるようにするための『手順書+最低限の資材』をまとめた箱

新時代に求められる人材育成 講師 工藤勇一氏

社会が大きく変化する今、教育や地域づくりでは「主体性」と「当事者性」がこれまでに以上に重要になっています。これからの人材には、自ら考え、選び、行動する力が欠かせません。主体性とは、答えを待つのではなく、自ら課題を見つけ判断し行動する力。当事者性とは、物事を「自分ごと」として捉え、責任を持って関わる姿勢です。

この二つが育つことで、子どもも大人も地域課題に受け身ではなく、解決に向けて動くようになります。災害対応や地域活動、学校教育など、さまざまな場面で力を発揮します。

議員としても、こうした力を育む環境づくりを進めることが、これからの地域の力につながるかと強く感じています。

(文責：岡元修一)

著作権について 1月21日

講師 川口智子氏 (南日本新聞社 ひろば室)

新聞記事や写真、紙面イメージ等は著作物として著作権法により保護されており、無断での転載・複製・配布は原則として認められていません。ただし、私的使用や法令で定められた適法な引用など、一定の範囲においては例外的に許可を要しない場合もあります。これらの著作物を公的な資料や広報等に利用する場合には、多くの場合、著作権者の許諾を得る必要があります。使用目的や方法、期間などを明示したうえで、定められた条件を遵守することが求められます。企業や自治体におけるコピーやPDF化についても、業務利用に該当する場合は同様に適切な対応が必要となります。また、記事内容を参考に自らの言葉で要約・整理することは可能ですが、元の表現の創造性をそのまま利用することがないよう留意する必要があります。単なる言い換えにとどまる場合には、著作権侵害となるおそれがあります。引用を行う際には、必要性や主従関係、出典の明示など、法令上の要件を満たすことが不可欠です。

研修を通じて、新聞等は重要な情報収集手段である一方、その利用にあたっては著作権への正しい理解と適切な運用が不可欠であると認識しました。今後はこれらの点に十分留意し、適正な範囲で一般質問等に活用してまいります。

(文責：中山美幸)

群馬県藤岡市議会議員 来訪「タブレットの活用について」 2月17日

本町のタブレット活用の経緯を説明した後、藤岡市議会との意見交換を行いました。藤岡市では導入から3～4年が経過していますが、現在は「議案書はタブレット」「予算書は紙」という併用方式で運用しているとのことでした。又、まだタブレットはパソコンに比べて使いにくさを感じるという点は、両議員間に共通する意見でした。



YouTubeでの議会放映については、藤岡市議会では一般質問（録画）のみを対象としています。一方、大崎町では生配信で本会議を放映しています。費用について問われた際には「技術に長けた職員が対応しているため、追加費用は発生していない」と説明しました。こうした背景もあり、本町では情報公開を優先して取り組んできた経緯があります。

災害時にも必要となる情報発信体制であり、時代が求める取り組みであることを共有し、今後も互いに活用方法を工夫しながら対応していくことを確認しました。

（文責：岡元修一）

南大隅町訪問「通年議会について」 3月23日

議会改革等調査特別委員会の委員で南大隅町を訪問し、通年議会の運営について学ぶことができました。

通年議会は、平成23年の特別委員会設置後の検討を経て、平成25年4月に地方自治法第102条第2項に基づき導入された制度です。4月2日召集の365日議会とし、月1回の本会議開催、休会月なし、議案提出から10日以内の開会を基本としています。議案の多くは全員協議会で協議され、委員会付託は行っていないとのことでした。

「月初めに日程を固定しているが、例会以外の開催はあるのか」との質問には、「月1回と申し合わせており、行政側と年間スケジュールを共有しているため負担増はない」との説明がありました。



通年議会という名称から受ける印象よりも、実際の運営は簡潔で分かりやすい仕組みであると感じました。本町議会としては、制度の実効性を見極めながら検討を進めていく必要があると受け止めました。

（文責：岡元修一）

定例会議案等に対する採決状況一覧

○賛成 ●反対
議長(吉原信雄)は裁決に加わらない。

議案等の番号	件名	賛否の意思表示										議決結果					
		吉原信雄	鷲東慎一	中山美幸	中倉広文	宮本昭一	神崎文男	稲留光晴	児玉孝徳	富重幸博	岡元修一		藤田香澄				
12月議会	議案第50号	令和6年度大崎町水道事業剰余金の処分について	-	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第51号	令和6年度大崎町公共下水道事業剰余金の処分について	-	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	発議第1号	大崎町議会議員の定数条例の一部を改正する条例の提出について	-	●	●	●	欠	●	●	○	○	●	●	○	○	○	否決
	議案第52号	令和7年度大崎町一般会計補正予算(第5号)	-	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第53号	令和7年度大崎町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	-	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第54号	大崎町くにの松原キャンプ場の指定管理者の指定について	-	●	●	○	欠	○	●	●	●	●	○	○	○	○	否決
	議案第55号	大崎町益丸プールの指定管理者の指定について	-	●	●	●	欠	●	●	●	●	●	○	○	○	○	否決
	議案第56号	防災行政無線設備(親局)更新作業業務委託契約の締結について	-	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
3月議会	承認第1号	専決処分の承認を求めることについて(令和7年度大崎町一般会計補正予算(第7号))	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	承認
	議案第7号	令和7年度大崎町一般会計補正予算(第8号)	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第8号	令和7年度オオサキポイント事業特別会計補正予算(第1号)	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第9号	令和7年度大崎町国民健康保険事業特別会計補正予算(第4号)	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第10号	令和7年度大崎町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第11号	令和7年度大崎町介護保険事業特別会計補正予算(第3号)	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第12号	令和7年度大崎町水道事業会計補正予算(第3号)	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第13号	大崎町職員等の旅費に関する条例の全部を改正する条例の制定について	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第14号	大崎町子ども医療費の給付に関する条例及び大崎町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例の制定について	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第15号	大崎町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第16号	大崎町火入れに関する条例の一部を改正する条例の制定について	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第17号	令和8年度大崎町一般会計予算	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第18号	令和8年度オオサキポイント事業特別会計予算	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第19号	令和8年度大崎町国民健康保険事業特別会計予算	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第20号	令和8年度大崎町後期高齢者医療特別会計予算	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第21号	令和8年度大崎町介護保険事業特別会計予算	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第22号	令和8年度大崎町水道事業会計予算	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第23号	令和8年度大崎町公共下水道事業会計予算	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	議案第24号	大崎町過疎地域持続的発展計画の策定について	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	陳情第1号	医療確保プロジェクトに係る予算及び事業経過の慎重審議並びに今後の大崎町の医療確保方針の十分な検討を求める件	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採択
発議第2号	緊急燃油高騰対策に関する発議の提出について	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採択	



(再任)

氏名 二見いすず氏 (69歳)
住所 大崎町假宿

【教育委員会委員】
教育委員会委員の任命について同意しました。



(新任)

氏名 佐藤一郎氏 (66歳)
住所 大崎町永吉

【副町長】
大崎町副町長の選任について同意しました。

人事案件

競走馬育成の経営をされている 山下奈穂美さんに聞きました

人々の心に残る馬を育てていきたい



エスポワールファーム
(山下牧場)
代表 山下 奈穂美さん

広報広聴常任委員会委員
インタビュー 中倉 広文 議員

中倉議員

牧場の経営を始められたきっかけは。

山下さん

ここは元々騎手であった父が始めた牧場でした。父が亡くなったことにより、その経営を引き継ぐかたちで始めて3年目を迎えます。

中倉議員

牧場での一日はどのような流れですか。

山下さん

牧場の一日は、早朝の馬の体調確認や給餌から始まり、午前中に2名のインド国籍の騎乗スタッフが馬を走らせます。(現在8頭を管理)他にトレーニング後の馬のケアや厩舎の清掃などの仕事があります。

中倉議員

今後、この牧場をどのようにしていきたいですか。

山下さん

競走馬は競走馬であることが幸せなんじゃないかなって思っていて、だからレースで活躍できる強い馬を育てたいという思いがあります。従業員の数とか、いろいろと課題はありますが、今よりも大きく、馬も増やしていきたいと思っています。

◆山下さん、貴重なお話ありがとうございます。

中倉議員

「ソイジャガー」や「ミラシカ」など特徴的な馬の名前をつけている理由は。

山下さん

レースで活躍した馬は当然、記憶に残るのですが、なかには活躍できない馬もいて、それでも名前だけでも覚えてもらえればと思っています。響きが良かったりすると覚えてもらいやすいので、そういう感じで結構悩みながら名前をつけています。



私の想い

アートトラックに想いを込めて

職人としての挑戦



株式会社ONLY
代表取締役
田原 功平

幼い頃、父がトラックで仕事をしている姿をみて、アートトラックに興味を持ちました。

「いつか自分自身で手がけてみたい」と考え、22歳のときに愛知県にあるアートトラックを手がける専門工房に入社。8年の修行を経て30歳のときに独立しました。

トラックは単なる運搬手段ではなく、事

業者の顔であり、誇りでもありません。だから

こそ、機能性や安全性だけでなく、見た目の美しさや存在感にも

徹底的にこだわりの、一台一台に個性を持たせたいと考えました。

架装によって使いやすさや効率を高めるのはもちろん、オーナーの想いやこだわりの形にすることで、

「このトラックで仕事したい」と思える一台を提供したいと考えています。見た目が変わることによって仕事への意欲や愛着が高まり、結果として企業の価値向上にもつなが

ると信じています。特にアートトラックは、日本独自の文化として強い魅力を持っています。装飾や塗装など細部にまでこだわり抜かれた一台は、まさに「走る芸術」です。

街を走るだけで人の目を引き、見る人に感動やインパクトを与える力があります。それは単なる車両ではなく、オーナ

の生き様や美意識を表現する存在です。架装を

通じて、

かっこい

ただけで

なく、価値のあるトラックを創り続けていきます。お客様の想いを形にし、長く愛され、誇れる一台を提供することが、私たちの使命です。

今後、技術と感性を磨き続け、新たなトラックの可能性を追求していきます。



トラック架装作業中

編集後記

野山の草木の新緑も一段と色濃くなり、初夏の陽気で季節の移り変わりが感じられる今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。一方海外では中東の情勢悪化による原油の価格上昇など、先行き不透明となっており、国内においても物価の高騰など経済に大きな影響が出ております。一日でも早く平和を願いたいものです。

また、今の時節は寒暖差による体調管理にも十分ご自愛されてください。

(宮本昭一)

- 議会広報広聴常任委員会
- 委員長 岡元 修一
 - 副委員長 中倉 広文
 - 委員 中山 美幸
 - 委員 宮本 昭一
 - 委員 神崎 文男
 - 委員 稲留 光晴

発行責任者

大崎町議会議長 吉原 信雄